

聊城市概況



【基礎情報】(2024年)

- 人口: 585.93万人(省内8/16位)
- 面積: 8628km²(省内10位)
- GDP: 3167.96億元(省内14位)



【党委書記 李長萍】

1975年4月生まれ、威海出身
2022年4月～現職

(前任: 孫愛軍・山東省発展改革委員会党委書記・主任)



【市長 張百順】

1971年6月生まれ、濰坊出身
2022年4月～現職

(前任: 李長萍・聊城市党委書記)

【歴史的エピソード】

- ◆昔から農耕文明、黄河文化、運河文化が交わる歴史文化都市。
- ◆臨清市は、京杭運河の発達により明清時代の500年にわたり繁栄。
- ◆聊城の地名は、昔あった河の名(聊河)に由来。

【現在の特徴】

- ◆伝統的に農業や装備産業が盛ん。漢方薬剤や温泉資源が豊富なことから医薬健康産業も有力。
- ◆東阿県は、阿膠(ロバの皮から作る健康食材)、高唐ロバ肉、雑技で有名。
- ◆特産・名物: 阿膠、雑技、ロバ肉。

【日本との関係】

- ◆在留邦人数: 2人(2024年10月現在)
- ◆友好都市: 東阿県と泉佐野市(2019年)
- ◆ODA: 莘(シン)県母子保健院母子救急センター拡張計画(2001年)の草の根・人間の安全保障無償資金協力実績あり。

【日本とゆかりのある地・施設】

- ◆曹植墓(東阿県)
仏教音楽(梵唄)の祖と言われる曹操の三男・曹植が祭られている。梵唄は円仁が日本に持ち込み京都で「声明」として普及したとされる。そのため京都の寺院関係者が寄贈した石碑が複数残されている。



【観光地】

◆舍利宝塔(臨清市)

明の時代(1611年)に建造された9層、高さ61メートルの塔。河北省との境界である京杭運河沿いにあり、運河四大名塔と呼ばれる。



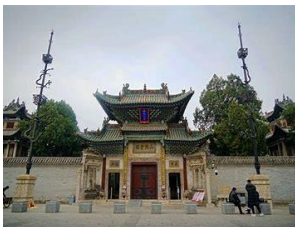
◆臨清鈔関

古運河の税務署。運河八大鈔関の中で唯一現存。公園化しており、当時の様子を示す各種資料を展示。



◆山峽会館

聊城八大会館の一つで唯一現存。清の時代(1743～1809年)に山西と陝西出身の人たちに使われた会館。



【グルメ】

◆什香面

臨清市の名物の麺料理。清の乾隆帝が来訪した際に提供したのが由来とされる。18種の具を混ぜて食べる。



◆高唐驢(ロバ)肉

ロバ肉は脂身が少なくヘルシー。そのおいしさは「天に龍肉あり、地にロバ肉あり」と評される。山東省内では臨沂市・莒南とともに有名。

